

意匠関連業務における

生成 AI 活用の最新動向

デザイン創作・権利保護・審査技術の各国比較分析

2026年4月

Claude Opus 4.6

概要

意匠（インダストリアルデザイン）分野では、生成 AI が「デザイン創作」と「出願・審査・調査」の両面で急速に浸透しつつある。2024～2026 年の間に、USPTO が 80 以上のグローバル意匠登録簿を横断検索できる AI 画像検索ツール「DesignVision」を稼働させ^[12]、EUIPO の DesignView は 76 の IP オフィスから 1 億 1,100 万件以上の画像を検索可能な世界最大の意匠画像検索エンジンへと進化した^[3]。法制面では、日本・米国・EU・中国のいずれも AI 単独での創作者性を否定しつつ、AI 支援デザインの保護枠組みの整備を急いでいる。日本の JPO は 2026 年の意匠法改正に向けた検討を本格化させており^[4,5]、生成 AI による大量デザイン公開が正当な意匠権取得を阻害する「先行意匠の洪水」問題への対応が喫緊の課題となっている。

1. デザイン創作における生成 AI 活用の現在地

1-1. 主要 AI ツールと実務ワークフロー

意匠デザインの創作支援に用いられる生成 AI ツールは、大きく「2D 画像生成」「3D モデル生成」「エンジニアリング最適化」の 3 層に分類できる。

2D 画像生成 AI は、コンセプト段階のアイデア出しやムードボード作成で最も広く活用されている^[6]。Midjourney（月額 10～60 ドル）はライティング・テクスチャの表現力に優れ、プロダクトデザインのコンセプトアート生成で主流の地位を占める。Stable Diffusion はオープンソースの柔軟性からブランド固有スタイルの制御に適しており、LoRA 等のカスタムモデルにより企業独自のデザイン言語を学習させることが可能である。Adobe Firefly は、Adobe Stock データで学習されているため商用利用時の著作権リスクが低いという独自の優位性を持ち、Photoshop・Illustrator に統合された「生成塗りつぶし」「生成ベクター」機能として実務に組み込まれている^[7]。

インダストリアルデザイン専用 AI として注目すべきは Vizcom.AI である^[8,9]。元 Honda・NVIDIA のインダストリアルデザイナーが創業した同社は、手描きスケッチからフォトリアリスティックなレンダリングを数秒で生成し、マテリアル・ライティング制御、3D モデルインポート、マスクによる部分編集、リアルタイムライブレンダラーを提供する。MistyWest 社の事例では、LiDAR スキャニングデバイスのプロジェクトでスケッチからレンダリングまでの時間を 50%削減し、プロジェクト期間を 4 週間から 2 週間に短縮した^[10]。

3D モデル生成 AI の分野では、Meshy AI がユーザー数 500 万人超・生成モデル数 4,000 万超で市場をリードしている^[11]。テキストや画像から数秒～数分で 3D モデルを生成し、PBR テクスチャ付きで FBX・OBJ・GLB 形式に出力できる。2026 年 1 月の CES では、AI 生成 3D モデルからワンクリックで 3D プリント物理製品を製造する「AI Creative Lab」を発表した^[12]。NVIDIA の Edify 3D はテキスト・画像から 3D メッシュを生成する基盤モデルで、

SIGGRAPH 2024 のライブデモで 3D 砂漠景観を数分で構築した^[13,14]。

エンジニアリング最適化では、Autodesk Fusion 360 の生成設計（Generative Design）が工業用途のゴールドスタンダードである^[15,16]。材料・製造法・荷重・コストの制約条件を入力すると、AI が数百のバイオミミクリー的な最適化構造案を生成する。Airbus（45%軽量化されたパーティション）、NASA の火星試料回収ミッション蓋設計等の実績がある。2025 年の AU（Autodesk University）では「Autodesk Assistant」としてテキストから編集可能な 3D ジオメトリを生成する機能が予告された^[17]。

1-2. 業界別活用事例

パッケージデザイン分野では日本企業の先進的な取組みが目立つ。伊藤園は 2023 年に業界初となる画像生成 AI を活用した「お〜いお茶 カテキン緑茶」のパッケージデザインを実現し、初期提案期間を 2〜3 週間から 1 週間に短縮した。マンダムは「冷肌ミスト」のデザイン開発期間を約 3 ヶ月から 1.5 ヶ月に半減し、通常の倍の数のデザイン案を生成した。オタフクソースは「評価 AI」を用い、特徴認知度スコア 2.2 倍の改善を達成した^[18,19]。

プロダクトデザインでは、Kia Global Design が Autodesk と共同で AI ホイールコンセプト生成ツールを開発した^[20]。Neural Concept の AI 設計車両プロジェクトでは空力特性の最適化を含むコンセプトカーの設計が行われている^[21]。Czinger 21C ハイパーカーは生成設計とアディティブマニュファクチャリングを全面採用し、1250HP・0-60mph 1.9 秒未満を実現した。

1-3. 実務上の課題と限界

生成 AI のデザイン活用における最大の課題は「CAD レディでない出力」である。AI 生成画像・3D モデルは製造に必要な工学的精度（公差、寸法、材料仕様）を欠いており、最終的な設計データへの変換には依然として人間の CAD エンジニアが不可欠である。CHI'25 の研究では、DALL・E は高度に具体的なデザイン要件への対応が困難であり、Stable Diffusion はより細かい制御が可能だが学習コストが高いと報告されている^[22]。ブランドの一貫性維持、物理的に不可能な構造の生成（ハルシネーション）、および「前例の組み合わせを超える真に新規なデザイン」の生成能力の限界も指摘されている^[23]。AI 生成 3D アセット市場は 2024 年の 16.3 億ドルから 2032 年には 92.4 億ドルに成長すると予測されている^[24]。

2. AI 生成デザインの意匠権保護に関する各国の法的対応

2-1. グローバルコンセンサスと基本原則

2026 年 4 月現在、主要国・地域のいずれも、人間の実質的な創作的関与なしに AI が単独で生成したデザインの意匠登録を認めていない。一方、AI をツールとして活用し、人間が意味のある創作的選択を行った「AI 支援デザイン」は全ての法域で保護適格性を維持してい

る。この「AI はツールである」という枠組みが現在の国際的な支配的見解であり、DABUS 事件を通じて各国で確認された^[25,26]。

2-2. 日本 (JPO) の対応状況

日本の意匠法は創作者を自然人に限定しており、DABUS 事件では東京地裁 (2024 年 5 月 16 日) および知財高裁 (2025 年 1 月 30 日) がいずれも AI の発明者性を否定した^[27,28]。

第 16 回意匠制度小委員会 (2024 年 12 月 6 日) では、「生成 AI 技術の発達を踏まえた意匠制度上の適切な対応」が主要議題となり、第三者が生成 AI を用いて大量のデザイン案を公開することで正当な開発者の意匠権取得が阻害される「先行意匠の洪水」問題が特に重大な懸念として提起された^[29]。

知的財産推進計画 2025 (2025 年 6 月) では、意匠制度小委員会に対し、令和 6 年度調査研究の成果に基づく AI 関連課題の検討が指示され、法改正を含めた必要な措置の検討が明記された^[4,5]。JPO は 2026 年の意匠法改正を視野に、AI 生成デザインの先行意匠洪水問題、メタバース・仮想空間デザインの保護、AI 支援デザインの創作者認定の 3 課題を検討している。

文化庁は 2024 年 3 月に「AI と著作権に関する考え方について」を公表し、単に AI にプロンプトを与えるだけでは創作的関与として不十分であり、自然人による創作的意図と創作的寄与が必要であるとの見解を示した^[30]。2025 年 6 月 4 日には「人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関する法律」(AI 関連法) が成立し、同年 9 月 1 日に施行された^[31]。

2-3. 米国 (USPTO) の対応状況

USPTO は意匠特許 (Design Patent) に関し、2024~2025 年に重要なガイダンスの変遷を経ている。2024 年 2 月 13 日の「AI 支援発明に関する発明者性ガイダンス」は、Pannu ファクターに基づき人間が「重要な貢献 (significant contribution)」を行ったかを判断する枠組みを提示した^[32]。しかし、2025 年 11 月 28 日の改訂ガイダンスでこれは撤回され、従来の「着想 (conception)」基準に回帰した^[33,34]。

改訂ガイダンスは AI を「実験器具、コンピュータソフトウェア、研究データベースと同様の道具」と位置づけ、発明者は「完成した発明の確定的かつ恒久的な観念 (definite and permanent idea)」を持つ必要があるとした。重要な点として、「意匠特許にも実用特許と同一の発明者性基準を適用する」ことが明示された^[34,35]。AI 生成デザインについては、出願人が「発明者の着想 (選択、構成、修正を含む) を文書化すること」が求められている^[36]。

連邦巡回控訴裁判所の Thaler v. Vidal 判決 (2022 年) は、「議会は自然人のみが発明者たりうると決定した」と判示し、AI の発明者性を否定した^[37]。学術的には BitLaw が 2025 年改訂ガイダンスについて「Pannu ファクターの枠組みを除去したことで、混合的な人間-AI 貢献のケースについてかえって不明確さが増した」と批判している^[38]。

2-4. EU (EUIPO) の対応状況

2024年11月18日に公布された新EU意匠規則(EU 2024/2822)および指令(EU 2024/2823)は、EU共同体意匠を「欧州連合意匠(EUD)」に改称し、仮想財(バーチャルグッズ)やデジタル・アニメーションデザインへの保護拡大を実現した(規則は2025年5月1日適用、指令の国内法化期限は2027年12月9日)^[39,40]。しかし、AI生成デザインについては明示的な規定を置いていない^[41]。EU意匠法の「個別的特徴(individual character)」の評価は「デザイナーの自由度」を考慮するため、人間デザイナーの存在が暗黙に前提とされているが、意匠権の成立に「著作者性」の厳密な証明は要求しないため、著作権法より保護のハードルが低い可能性がある^[42]。EUIPOは2025年5月に「生成AIの著作権の観点からの発展」に関する包括的研究を公表した^[43]。

2-5. 中国(CNIPA)の対応状況

CNIPAは2024年12月31日に「AI関連発明特許出願に関するガイドライン(試行)」を公布し、AI関連特許出願を4類型に分類した^[44,45]。第4類型(AI生成発明:人間の実質的貢献なし)は自然人の実質的貢献がないため「登録適格性を欠くと推定される」とした。「発明者は個人であるべきであり、組織・団体名やAI名は含めてはならない」と明記されている^[46,47]。ただし、同ガイドラインは主に発明特許に焦点を当てており、外観設計専利(意匠特許)に関する個別のAIガイダンスは未発出である。

2-6. その他の注目法域

韓国ではソウル高等裁判所(2024年5月16日)がAIの発明者性を否定した^[48]。英国最高裁(2023年12月)もDABUS出願を棄却したが、CDPA 1988年第9条第3項の「コンピュータ生成著作物」規定は独自の法的枠組みを提供する可能性がある^[25,49]。UKIPOは2025年にUK意匠法の近代化に関する大規模コンサルテーションを開始し、AI生成デザインの保護適格性を検討事項に含めている^[50,51]。ドイツ連邦通常裁判所(BGH)は2024年にAI生成発明の特許適格性を認める判断を示し、他国より許容的な立場を取った^[25]。

3. 意匠審査・調査におけるAIツール導入の各国比較

3-1. 各国特許庁のAIツール導入状況

各国特許庁は意匠審査の効率化・品質向上のため、AI画像検索ツールの開発・導入を加速させている。以下に主要オフィスの現状を整理する。

機関	ツール名	状況	主要機能
EUIPO	DesignView 画像検索	稼働中	世界最大の意匠画像検索エンジン。76 オフィス、1 億 1,100 万画像。色・形状・テキストによる AI 分析 [3]
USPTO	DesignVision	稼働中	80 以上のグローバル意匠登録簿を横断する AI 画

		(2025年7月)	像検索。1億2,000万以上の画像を検索可能 [1][2]
JPO	GrIP	稼働中 (2015年～)	GUI・画面デザイン特化の画像マッチング。形状＋色、形状のみ、色のみ等のモード [52]
CNIPA	AI 審査支援システム	稼働中	画像ベース検索、NLP、機械翻訳を統合。発明特許の平均審査期間を 15.5 ヶ月に短縮 [53]
WIPO	Global Design Database 画像検索	開発中	アップロード画像による類似意匠検索を構築中。Global Brand Database の商標画像検索技術を応用予定 [54]

3-2. USPTO の DesignVision が示す方向性

2025年7月17日に正式稼働した DesignVision は、意匠審査 AI 化の到達点を示す画期的なツールである^{[1][2]}。Clarivate が開発を受託し、PE2E (Patents End-to-End) 検索スイートに統合された。最大7枚の画像をクエリとして入力でき、80以上のグローバル IP 登録簿にフェデレーテッド検索が可能である^[55]。審査官が DesignVision を使用した場合、PE2E 検索履歴に記録され、出願人も確認可能という透明性が確保されている^[56]。

USPTO は DesignVision に先立ち、「More Like This」(2021年)、「Similarity Search」(2022年)を順次導入しており、130万回以上の AI 駆動検索イベントを記録している^[57]。2025年10月には自動 AI 事前審査検索のパイロット「ASAP!」も開始された^[58]。

3-3. JPO の AI アクションプランと意匠への展開

JPO は「AI 技術を活用した特許庁業務の高度化に向けたアクション・プラン」を毎年改訂しながら推進している^[59]。令和7年度改訂版(2025年6月25日)では9つの取組項目が設定され、新項目として「生成 AI の特許審査への適用」が追加された。

意匠分野では、INPIT が運用する GrIP (2015年～) が画像意匠の公開検索ツールとして機能しているが、JPO の AI 意匠審査ツール開発は過去のアクションプランで費用対効果の観点から優先度を下げた経緯がある。一方、商標分野では AI 画像検索ツールが 2023年4月から審査官に提供されており^[60]、Nishika 主催「AI×商標：画像検索コンペティション」で Yahoo Japan が優勝し、そのモデルが審査ツールに統合された^[61]。AI 審査支援チームは約10名から約40名に拡大(2023年10月)している^[62]。

4. 意匠出願・先行調査における民間 AI ツールの展開

4-1. AI 画像検索による先行意匠調査ツール

意匠調査の実務では、AI による画像類似性検索が「必須」の時代に突入している。

Patentfield (パテントフィールド) は京都に本社を置く日本発の AI 知財プラットフォーム

で、画像をアップロードすると日本・米国・欧州・台湾の特許・意匠公報図面から AI が類似画像を検索する「類似画像検索」機能を提供する^[63,64]。六面図の複数図面入力にも対応し、言語非依存のため国際的な意匠調査に適している。

PatSeer は AI 画像検索機能を明示的に持ち、113 以上のグローバルオフィスの意匠特許を画像またはビジュアル特徴で検索できる^[65]。**Questel Orbit Intelligence** は **Sophia AI** アシスタントが自然言語クエリからブール検索式を自動生成する。**Clarivate/Derwent** は 2024 年 12 月に **DWPI** データで学習した言語トランスフォーマーモデルによる **AI Search** を開始した。

4-2. 意匠出願図面の AI 生成

意匠出願に必要な六面図（6-view drawings）の完全自動生成は、2026 年現在なお技術的に未成熟である。意匠図面研究会（DPDI）の 2025 年 3 月の分析によれば、既存の 6 面図から斜視図を生成することは、**Meshy AI** で 6 面画像をアップロード→3D モデル化→視点調整という手順で実現可能だが、2D 技術図面からの完全自動精密 3D モデル生成には手動の寸法調整が依然必要である^[66,67]。

CAD ファイルから特許図面への変換では、**Pinch Patent Drawings** が STEP/STL/IGES 等から 10 分以内に 21 枚の白黒特許図面を生成する（50 ドル/セット）。**renue × WOGO** の「3D・2D 図面 AI」は自然言語プロンプトから STEP ファイル対応の 3D/2D CAD モデルを生成する日本発のサービスである。現状では、物理的な製品の写真やスケッチから意匠出願用の完全な六面図セットを自動生成する汎用的な商用ツールは存在しない。

5. 各国特許庁の公式見解・ガイドライン一覧

各国の意匠制度における AI 関連の主要な公式文書・見解を時系列で整理する。

USPTO 2024 年 2 月：AI 支援発明の発明者性ガイダンス（Pannu ファクター適用）^[32]。文化庁 **2024 年 3 月**：「AI と著作権に関する考え方について」^[30]。**JPO 第 16 回意匠制度小委員会 2024 年 12 月 6 日**：生成 AI 対応と仮想空間デザイン^[29]。**CNIPA 2024 年 12 月 31 日**：AI 関連発明特許出願ガイドライン（試行）^[44]。**EU 2024 年 11 月 18 日**：新 EU 意匠規則・指令公布（AI 未明示）^[39]。

知的財産推進計画 **2025 2025 年 6 月**：意匠法改正を含めた措置の検討指示^[4]。日本 AI 関連法 **2025 年 6 月** 成立、**9 月** 施行^[31]。**USPTO DesignVision 2025 年 7 月** 稼働開始^[1]。**USPTO 改訂発明者性ガイダンス 2025 年 11 月 28 日**：2024 年版撤回、意匠特許に明示適用^[33]。

EUIPO DesignView 2026 年 2 月：76 オフィス・1.11 億画像に拡大^[3]。

6. 今後の展望と実務への示唆

意匠分野における生成 AI の活用は、「創作ツール」としての活用は急速に成熟しつつあるが、「権利取得・保護」の法的枠組みは各国とも過渡期にあるという構図が鮮明である。

第一に、法制面では日本の 2026 年意匠法改正が最も注目される。生成 AI による先行意匠の洪水問題は、意匠法固有の深刻な脅威であり、JPO の対応が国際的な先例となる可能性がある^[4,5,29]。米国の USPTO は 2025 年 11 月の改訂ガイダンスで意匠特許への AI 発明者性基準を明確化した^[33,34]が、着想概念の適用が混合的貢献のケースで十分機能するかは未検証である^[33,34]。EU の新意匠規則は AI を正面から扱っておらず、裁判所・EUIPO の解釈に委ねられた状態が続く^[39,41]。

第二に、審査技術面では EUIPO の DesignView (1.11 億画像) と USPTO の DesignVision (1.2 億画像) の双璧が形成され、AI 画像検索は意匠審査の標準インフラとなった^[1,3]。

WIPO の Global Design Database 画像検索の稼働開始が次の重要マイルストーンである^[54]。

第三に、実務者にとっての最も実践的な課題は、AI 支援デザインの創作過程における人間の創作的関与の文書化である。USPTO の改訂ガイダンスが明示するとおり、「発明者の着想 (選択、構成、修正を含む)」を記録・文書化する実務慣行の確立が、今後の意匠出願戦略において不可欠となる^[34,36]。また、六面図自動生成ツールの未成熟さを踏まえ、3D CAD モデルからのレンダリングワークフローを最適化しておくことが、出願実務の効率化に直結する^[66,67]。

生成 AI は意匠デザインの「工具箱」における最も強力な新しいツールとなったが、それを振るう人間の創作的判断こそが、法的保護の根幹であり続けている。

参考文献

- [1] USPTO, "USPTO launches new design patent examination AI tool," July 2025.
<https://www.uspto.gov/subscription-center/2025/uspto-launches-new-design-patent-examination-ai-tool>
- [2] IPWatchdog, "Design Patent Search Tool is Latest AI Feature for Examiners to Address USPTO Backlog," July 17, 2025. <https://ipwatchdog.com/2025/07/17/design-patent-search-tool-latest-ai-feature-examiners-address-uspto-backlog/>
- [3] EUIPO, "DesignView becomes the world's largest design image search engine," 2026.
<https://www.euipo.europa.eu/en/news/designview-becomes-the-world-s-largest-design-image-search-engine>
- [4] ナラハ奈良法律事務所, 「AI の知財侵害を防ぐ 2026 年、意匠法改正も視野に (特許庁)」,
<https://kigyohoumu-naraha-law.jp/wp/?p=1220>
- [5] 日本経済新聞, 「生成 AI 用いた知財侵害を抑制 特許庁、企業の開発保護」,
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOJA050P20V01C24A1000000/>
- [6] Devlin Peck, "AI in Design: 15 Best Tools + The Future of the Industry (2025),"
<https://www.devlinpeck.com/content/ai-in-design>
- [7] デジタルハリウッド, 「【最新】デザイン生成 AI ツールおすすめ 20 選」,
https://school.dhw.co.jp/course/web/contents/r_Webdesign_AI.html
- [8] Radical Ventures, "Vizcom - Portfolio," <https://radical.vc/portfolio/vizcom/>
- [9] Vizcom, "Turn Sketches into Full-Fidelity 3D Renders, Instantly," <https://vizcom.com/>
- [10] MistyWest, "Reduce Time-to-Market with AI for Industrial Design,"
<https://www.mistywest.com/posts/reduce-time-to-market-with-ai-for-industrial-design/>
- [11] Meshy AI, "The #1 AI 3D Model Generator," <https://www.meshy.ai/>
- [12] ManufacturingTomorrow, "Meshy Unveils AI Creative Lab at CES 2026," January 6, 2026.
<https://www.manufacturingtomorrow.com/news/2026/01/06/meshy-unveils-ai-creative-lab-at-ces-2026/>
- [13] NVIDIA Blog, "Research Galore From 2024: Recapping AI Advancements in 3D Simulation,"
<https://blogs.nvidia.com/blog/ai-research-2024/>
- [14] NVIDIA Blog, "NVIDIA Researchers Harness Real-Time Generative AI," SIGGRAPH 2024.
<https://blogs.nvidia.com/blog/real-time-3d-generative-ai-research-siggraph-2024/>
- [15] Autodesk, "Generative Design for Manufacturing | Autodesk Fusion,"
<https://www.autodesk.com/solutions/generative-design/manufacturing>
- [16] CADD Centre, "The Rise of AI-Powered Tools in Industrial Product Design,"
<https://caddcentre.com/blog/the-rise-of-ai-powered-tools-in-industrial-product-design/>
- [17] Autodesk, "Autodesk Assistant: Shaping the Future of Design and Make,"
<https://www.autodesk.com/products/fusion-360/blog/autodesk-assistant-ai/>
- [18] T3 デザイン, 「画像生成 AI を活用したパッケージデザインの成功事例 5 選」,
<https://t3design.co.jp/blog/237>
- [19] T3 デザイン, 「画像生成 AI を活用したパッケージデザイン事例 (マンダム・オタフクソース)」,
<https://t3design.co.jp/blog/237>
- [20] Autodesk, "Kia Global Design explores generative AI for automotive design,"
<https://www.autodesk.com/design-make/articles/kia-generative-ai-for-automotive-design>
- [21] Neural Concept, "From Concept to Reality: The Development of an AI-Designed Car,"
<https://www.neuralconcept.com/post/from-concept-to-reality-the-development-of-an-ai-designed-car>
- [22] Harman P.K. et al., "A Cross-Level Perspective on The Role of Generative AI in Design," CHI 2025.
https://harmanpk.github.io/Papers/CHI2025_GenAI-Design.pdf
- [23] Brilworks, "Challenges of Generative AI in 2026," <https://www.brilworks.com/blog/challenges-of-generative-ai/>
- [24] Garagefarm, "Generative AI in 3D modeling is revolutionizing digital creation: your complete 2025

- guide," <https://garagefarm.net/blog/generative-ai-in-3d-modeling-is-revolutionizing-digital-creation>
- [25] The Artificial Inventor Project, "Patent," <https://artificialinventor.com/patent/>
- [26] Mondaq, "DABUS Case: AI Inventorship In Indian Legal Regime," <https://www.mondaq.com/india/patent/1600594/dabus-case-ai-inventorship-in-indian-legal-regime>
- [27] Hogan Lovells, "Can an AI be a patent inventor? (Japan)," <https://www.hoganlovells.com/en/publications/can-an-ai-be-a-patent-inventor-japan>
- [28] Chambers and Partners, "Artificial Intelligence 2025 - Japan," <https://practiceguides.chambers.com/practice-guides/artificial-intelligence-2025/japan>
- [29] 特許庁, 「意匠制度に関する検討課題について (第 16 回意匠制度小委員会, 令和 6 年 12 月 6 日, 資料 1)」, https://www.jpo.go.jp/resources/shingikai/sangyo-kouzou/shousai/isho_shoi/document/16-shiryu/03.pdf
- [30] Business & Law, 「この半年の生成 AI に関する主な変化」, <https://businessandlaw.jp/articles/a20250711-1/>
- [31] 内閣府, 「AI 法 全面施行 一次なるフェーズへ」, 2025 年 10 月. https://www.cao.go.jp/press/new_wave/20251003.html
- [32] Federal Register, "Inventorship Guidance for AI-Assisted Inventions," February 13, 2024. <https://www.federalregister.gov/documents/2024/02/13/2024-02623/inventorship-guidance-for-ai-assisted-inventions>
- [33] Federal Register, "Revised Inventorship Guidance for AI-Assisted Inventions," November 28, 2025. <https://www.federalregister.gov/documents/2025/11/28/2025-21457/revised-inventorship-guidance-for-ai-assisted-inventions>
- [34] Mayer Brown, "USPTO Issues Revised Guidance on Inventorship for AI-Assisted Inventions," December 2025. <https://www.mayerbrown.com/en/insights/publications/2025/12/united-states-patent-and-trademark-office-issues-revised-guidance-on-inventorship-for-ai-assisted-inventions>
- [35] Morgan Lewis, "USPTO Issues Revised Inventorship Guidance for AI-Assisted Inventions," December 2025. <https://www.morganlewis.com/pubs/2025/12/uspto-issues-revised-inventorship-guidance-for-ai-assisted-inventions>
- [36] AI Law and Policy, "USPTO's Revised Inventorship Guidance for AI-Assisted Inventions: What Changed, What Stayed, and What Practitioners Should Do Now," December 2025. <https://www.ailawandpolicy.com/2025/12/usptos-revised-inventorship-guidance-for-ai-assisted-inventions/>
- [37] Congress.gov, "Artificial Intelligence and Patent Law," <https://www.congress.gov/crs-product/LSB11251>
- [38] BitLaw, "Artificial Intelligence (AI) Patents," <https://www.bitlaw.com/ai/AI-patents.html>
- [39] Tsibanoulis, "A New Era for Design Protection in the European Union," <https://tsibanoulis.gr/news-head/news/a-new-era-for-design-protection-in-the-european-union>
- [40] HLK, "The EU Design Reform Package: Modernising IP for the 21st century," <https://www.hlk-ip.com/news-and-insights/the-eu-design-reform-package/>
- [41] Lexgo, "Could AI-generated designs find protection under EU design law?," <https://www.lexgo.be/en/news-and-articles/13740-could-ai-generated-designs-find-protection-under-eu-design-law>
- [42] CMS Lawnow, "Could AI-generated designs find protection under EU design law?," October 2024. <https://cms-lawnow.com/en/ealerts/2024/10/could-ai-generated-designs-find-protection-under-eu-design-law>
- [43] EUIPO, "EUIPO releases study on generative artificial intelligence and copyright," May 2025. <https://www.euipo.europa.eu/en/news/euipo-releases-study-on-generative-artificial-intelligence-and-copyright>
- [44] China IP Law Update, "CNIPA Issues Guidelines for Patent Applications for AI-Related Inventions," January 2025. <https://www.chinaiplawupdate.com/2025/01/chinas-national-intellectual-property-administration-issues-guidelines-for-patent-applications-for-ai-related-inventions/>
- [45] Hogan Lovells, "Navigating AI patent applications in China: Key insights from CNIPA's new

- examination guidelines," <https://www.hoganlovells.com/en/publications/navigating-ai-patent-applications-in-china-key-insights-from-cnipas-new-examination-guidelines>
- [46] DLA Piper, "China Releases Guidelines for AI Related invention patent applications," February 2025. <https://www.dlapiper.com/en/insights/publications/2025/02/china-releases-guidelines-for-ai-related-invention-patent-applications>
- [47] China IP Law Update, "CNIPA Releases Draft Guidelines for Patent Applications for AI-Related Inventions," December 2024. <https://www.chinaiplawupdate.com/2024/12/cnipa-releases-draft-guidelines-for-patent-applications-for-artificial-intelligence-related-inventions/>
- [48] Kim & Chang, "High Court Reaffirms AI Cannot Be an Inventor in Korea," https://www.ip.kimchang.com/en/insights/detail.kc?sch_section=4&idx=29908
- [49] JUVE Patent, "UK Supreme Court has final say on Dabus as named inventor," <https://www.juve-patent.com/cases/uk-supreme-court-dabus-named-inventor-patent-stephen-thaler/>
- [50] Katten, "Major Changes to UK Design Law Under Consultation, Including AI-Generated Designs," <https://katten.com/major-changes-to-uk-design-law-under-consultation-including-ai-generated-designs>
- [51] Katten, "UKIPO Design Law Consultation: AI-generated designs analysis," 2025. <https://katten.com/major-changes-to-uk-design-law-under-consultation-including-ai-generated-designs>
- [52] 特許庁/INPIT, 「GriP（画像意匠公報検索支援ツール）」
- [53] CNIPA, "AI Used to Enhance Patent Examination Efficiency, Quality," April 2025. https://english.cnipa.gov.cn/art/2025/4/25/art_3090_199315.html
- [54] Intepat, "Artificial Intelligence Based Image Search Tools in EUIPO and WIPO," <https://www.intepat.com/blog/trademark-logo-image-search-euipo-wipo>
- [55] Quarles, "AI Search Tool Coming to Design Patent Examination," <https://www.quarles.com/newsroom/publications/ai-search-tool-coming-to-design-patent-examination>
- [56] Clarivate, "DesignVision," <https://clarivate.com/intellectual-property/brand-ip-solutions/design-vision/>
- [57] D Young & Co, "Use of AI tools at the UKIPO, EPO and USPTO," <https://www.dyoung.com/en/knowledgebank/articles/ai-tools-ukipo-epo-uspto>
- [58] USPTO, "Artificial Intelligence Search Automated Pilot Program," <https://www.uspto.gov/patents/initiatives/automated-search-pilot-program>
- [59] JPO, "Action Plan for Utilization of Artificial Intelligence (AI) Technology (Rev.2024)," https://www.jpo.go.jp/e/system/laws/sesaku/ai_action_plan/ai_action_plan-fy2024.html
- [60] Abe, Ikubo & Katayama, "Advancements in Trademark Examination Using AI by the JPO," January 2025. <https://www.aiklaw.co.jp/en/whatsnewip/2025/01/22/5268/>
- [61] 特許庁, 「AI×商標：イメージサーチコンペティション」の開催, https://www.jpo.go.jp/system/laws/sesaku/ai_action_plan/ai_action_plan-image.html
- [62] METI, "System for the Team Supporting AI Examinations to be Enhanced," September 2023. https://www.meti.go.jp/english/press/2023/0921_001.html
- [63] Patentfield, "類似画像検索機能リリース," <https://en.patentfield.com/news/239>
- [64] PR TIMES, 「Patentfield 新機能『類似画像検索』『PF レポート』リリースのお知らせ」, <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000043.000025380.html>
- [65] PatSeer, "Top 5 AI Patent Search Platforms to Watch in 2025," <https://patseer.com/top-5-ai-patent-search-platforms-to-watch-in-2025/>
- [66] 意匠図面研究会（DPDI）, 「生成 AI で意匠出願用図面を作成することができるのだろうか?」, 2025年3月. <https://www.dpdj.jp/post-3376/>
- [67] 意匠図面研究会（DPDI）, 「生成 AI による意匠出願用図面作成の実験報告」, <https://www.dpdj.jp/post-3376/>